



「歳寒くして然る後、松柏の凋むに後るるを知る」

人は逆境になって初めて地が出てくる。

その時こそが本当のその人なんですよ。

苦しいこと、辛いことがあっても堪える。

厳寒の雪の中の松のように……。

わかってはいる。

しかし恥ずかしい話であるが、

堪えきれずに言葉を荒げ、怒ってしまった。

「ああ、言いすぎた、また嫌な思いをさせてしまった」

と反省するのであるが、後の祭り。

理由を探しても元に戻る訳ではない。

謝るしかない。

「過ちては改むるに、はばかり事勿れ」

私もまさしくことも達と一緒に論語を学ぶ途中である。

論語はいつでも、どこでも、誰にとっても、

生きる上での南十字星、羅針盤なのである。

龍光院住職 小堀月浦



せんせい

安岡定子

(銀座・寺子屋こども論語塾代表)

やすおかさこ

一九六〇年東京生まれ。二松学舎
大学文学部中国文学科卒業。漢学者・
安岡正篤の孫。現在「銀座・寺子屋
こども論語塾」「斯文会・こども論語
塾」「龍光院・寸松塾」をはじめ宮城
県塩竈市、茨城県水戸市、宮崎県都
城市等、全国各地で定例講座は二十
五講座に及び、幼いこどもたちやそ
の保護者に『論語』を講義している。



仙台東照宮



仙台東照宮

仙台市青葉区東照宮一丁目六の一